

研究科長挨拶

大学院教育学研究科長

市川 伸一

学校臨床総合教育研究センターが改組されて、学校教育高度化センターが設置されたのは、2006年（平成18年）のことになります。本センターは教育学研究科全体の附属施設ではありますが、とくに学校教育高度化専攻の設置とは深く関わりがあり、本研究科が学校教育実践と連携しながら研究をすすめていくという姿勢の表れともいえるものです。

本センターは、学校教育の高度化というテーマを核として、3つの大きな活動を行っています。第1は、シンポジウム、ワークショップ、セミナー、研究会などの研究行事の開催です。センターが主催する場合もありますし、本研究科の教員が行っているものをセンターが後援する場合もあります。これまでも、個々の教員が行ってきた研究会も、センターのもとに一括して登録し広報することで、より多くの参加者を募り、活動が活性化するようになりました。本センターのホームページが、全国の学校教員からアクセスされるようになり、多方面、遠方からの参加者が多く見られるようになったのは、たいへんうれしいことです。

第2に、本研究科の若手研究者に対する研究支援です。大学院の学生や研究員を対象に、学校教育に関わる協同研究プロジェクトを募集し、できるだけコースの壁を越えた領域横断的で実践的な研究が促進されるような研究助成を行っています。その報告会や報告書を見ますと、研究のレベルは年々向上してきていることが感じられます。これらは学外にも公開されていますので、ぜひご参照のうえ、さまざまなご意見やご指導をいただければありがたいと存じます。

第3に、大型研究プロジェクトを実施していくための中核的組織としての働きを本センターは担っています。とくに、平成23年度から、小玉重夫センター長を研究代表者とする科学研究費補助金基盤研究（A）として「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーションに関する理論的・実践的研究」がスタートしました。これは、本研究科の教員24名が参加する大きなプロジェクトで、附属中等教育学校をはじめいろいろな学校と連携しながら、次の学習指導要領の改訂に向けて、新たな提言をしていくことを目標としています。

このように、本センターは、まさに「学校教育の高度化」という実践的な目的のために、学校現場、あるいは、教育行政や他の研究機関との緊密な連携・協力関係を築きつつ研究をすすめていこうというセンターです。ただし、まだ活動は緒についたばかりであり、課題は山積しています。ぜひ今後とも、各方面からの皆様のご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。